

特集

第4回ホームカミングデー

1. 実施報告

平成28年（2016年）11月19日（土）に開催された第4回宇都宮大学ホームカミングデーの農学部イベントは、以下のスケジュールで行われました。

- I 学科出合いの会（学科ごとに企画） 10:00～11:30
- II 記念撮影
学長挨拶
学部長と語る会「創立100周年をいかに迎えるか」
11:30～12:30
- III ウェルカムパーティー 13:00～15:00

2. 学科出合いの会

【生物資源科学科】

参加者は旧生物生産科学科関係（植物・応用生物・動物）の定年になられた先生方7名、卒業生は20数名でした。はじめに、和田義春学科長から歓迎の挨拶の後、生物生産科学科が生物資源科学科と応用生命化学科に改組された経緯と生物資源科学科の教育内容が紹介されました。その後、各自簡単な自己紹介を行い、それぞれ懐かしい方々と談笑をするうちに短い時間が過ぎ去りました。用意した部屋のサイズと人数がよかったのか部屋の雰囲気はとても賑やかでした。

【応用生命化学科】

学科長挨拶からはじまり、応用生命科学科の学科構成および教職員紹介を行いました。思い出話を混ぜながら、和やかに懇談しました。その後、研究室を訪問し、以前使っていた実験道具や新しく導入された機械などを見ながら大いに盛り上がりました。

【農業環境工学科】

卒業生、定年になられた先生、学科教員が集い、各教員が自己紹介を兼ねて現在の学科の現況を説明するとともに、卒業生から社会人になるために身につけておくべき知識について、多くのリクエストを頂きました。時には思い出話をしながら、終始和やかな雰囲気での懇談しました。

【農業経済学科】

農経棟1階の多目的スペースに、これまで宇大農経学科が出版した報告書や農村調査実習のスナップ写真などを年

次順に陳列するとともに、さらには卒業論文を所蔵してある書庫も開放し、参加の方々に見て頂きました。皆様、懐かしくもあり、恥ずかしくもあり、という御様子でした。

【森林科学科】

森林科学科では、卒業生、教員に加えて、現役学生も参加しました。現役学生は、授業（森林科学総合実習）で過去の演習林での実習の内容などを調べており、当時の実習の様子などを卒業生に質問していました。また、演習林での実習などで歌われていた「林学科の歌」などについて、卒業生より歌唱指導があり、皆で合唱しました。最後に、全員で記念撮影をして散会しました。



学科出合いの会（森林科学科）

3. 学部長と語る会「創立100周年をいかに迎えるか」



石田朋靖学長

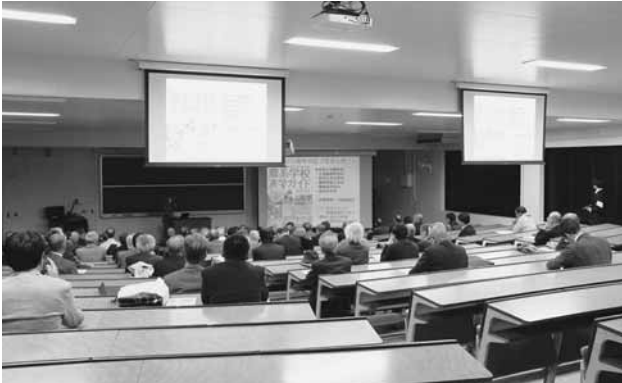
学部長と語る会に先立ち、石田朋靖学長から挨拶があり、歓迎の言葉と宇都宮大学3C基金への協力のお願がありました。

今回のテーマは「創立100周年をいかに迎えるか」として、杉田昭栄教授の司会のもとで、夏秋知英学部長がスライドショーによる説明をし、それに続いて卒業生が質問やコメントをする流れで進行しました。その概要について記します。

【開会の言葉（杉田昭栄教授）】

今回のテーマである「創立100周年をいかに迎えるか」ですが、夏秋学部長の100周年への思いを集約しているのではないかと思います。とは言いましても堅苦しい話し合いの場というよりは、色々な経験、昔からの校風、先輩た

ちが青春を過ごした農学部将来への思いを語っていただきながら、私たち準備する側としての参考にしたいと思えます。これからの農学部について大きな期待をかけていただくお声でもいいですし、これまでの歴史を踏まえて準備を考えるなど様々な視点の意見をいただく場にしたいと思います。



学部長と語る会の様子

【農学部の沿革（夏秋知英学部長）】



夏秋知英学部長

まだ100周年まではあと6年ですが、100周年記念という大きな事業なので、今から準備を始めたいと思います。そのためには、宇都宮大学農学部の過去と現状を分析した上で、未来を予測することが必要ではないかと思います。

現在の農学部を紹介すると、農学部の中には、生物資源科学科、応用生命化学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科に分かれています。ここに農学部附属の農場と演習林があり、大学附属の「雑草と里山の科学教育研究センター」と「バイオサイエンス教育研究センター」があります。

沿革ですが、大正11年（1922年）の10月、宇都宮高等農林が設置され、農学科、林学科、農政経済学科が設置されました。戦争が終わり、昭和24年（1949年）に新制大学が発足しました。この時は、農学科、林学科、農業経済学科、畜産学科、農業工学科、農芸化学科と、今とあまり変わっていません。

昭和41年（1966年）に修士課程が設置されました。すなわち、今年は修士設置50周年になります。宇都宮大学農学部の歴史の半分は、修士課程がない大学だったということです。その後、昭和58年（1983年）に農場が現在の真岡市の農場に統合されました。その後、昭和60年（1985年）に東京農工大学、茨城大学、宇都宮大学で連合農学研究科博士課程が設置されました。この頃から、研究力が非常にアップしたと感ずります。平成2年（1991年）には、農学科と畜産学科と農芸化学科が合わさり、生物生産科学科ができた

した。ちょうど25年前のことです。

その後、平成13年（2001年）に遺伝子実験施設が設置されました。世の中は遺伝子やDNAの時代となり、その先駆けとして設置されました。平成16年（2004年）には、国立大学すべてが法人化されました。この間、昭和42年（1967年）に農学部附属として雑草防除研究施設が設置されました。いわゆる「雑防」は平成3年（1991年）に、雑草科学研究センターとして、農学部の附属施設から全学の施設に変わりました。その後、平成11年（1999）に野生植物科学研究センターに改組され、最終的には、「雑草と里山の科学教育研究センター」に変わりました。また、遺伝子実験施設は、平成20年（2008年）に「バイオサイエンス教育研究センター」に改組されました。平成21年（2009年）に里山科学センターが設置され、その後に野生植物科学研究センターの一部と一緒に、「雑草と里山の科学教育研究センター」になりました。

このような歴史を経て、平成34年には、創立100周年を迎えるということです。

【農学部の特徴的な取り組み（夏秋知英学部長）】

大学で研究したり教育したりするのは当然で、昔も今も同じです。学生実験なども、研究は昔も今も変わっていません。昔と違うのは、1つは高大連携があります。どういうものかという、高校生が宇都宮大学に来て実験などの講義を受ける、あるいは、宇都宮大学の教員が高校に出向いて講義を行うという、以前にはなかったような高校生との交流です。これにはいいことがあります。現役の大学生を、ティーチングアシスタントという実験補助に使うのです。高校生は理科の実験がわからないので、大学生がそれを教えます。その教えることで大学生の知識や技量がアップしていきます。農学部およびバイオサイエンス教育研究センターと合わせて、毎年300名以上が受講しています。受講といっても、2日間くらいの実験をします。アグリカレッジですと、県内の農業高校生徒40名くらいが、6～10回宇都宮大学に来て、講義、実験を受けています。この地道な活動は、新聞などで順調に取り上げられています。

また、栃木テレビで大学院生が、自分の研究を紹介するという事業やっています。夕方の「イブニングシックス」というニュース番組の中で、約3分、修士の学生の研究紹介をしています。こういうものが、新たな教育プログラムの一環になっています。

最近、世の中では、グローバル化が言われていますが、農学部もアメリカのパデュー大学と協定校になりました。パデュー大学はシカゴの南、インディアナ州にある大学で、このインディアナ州と栃木県が姉妹都市提携していることから、大学同士の姉妹提携ができたということです。この

大学は、世界大学ランキング70位で、農学という部門別では世界5位です。世界屈指の良い大学と協定を結んでいます。このことから、毎年教員が1人ずつパデュー大学に留学しています。来年は4人目で、教員の実力アップを図っています。さらには、他の大学に海外留学できるシステムをどんどん充実させています。

【世界大学ランキング（夏秋知英学部長）】

世の中のグローバル化により、大学を順位付けすることが活発になってきています。今年の世界大学ランキングは、東京大学がアジアの4位、全体の39位です。京都大学は、全体の中で91位。パデュー大学は70位ですので、東大と京大の間くらいのいい大学です。マスコミ上をにぎわすのは、こういう東大がアジア4番でダメだとかのニュースばかりですが、宇都宮大学は、上位800～980番のランキングに入っているということを、全国紙は報道しませんが、下野新聞だけが報道してくれました。でも、それで十分だと思います。

世界の大学のランキングで1000位に入っているということは、素晴らしいことです。世界には約2万の大学があり、上位1000校に入るということは、上位5%に入っているということです。そして、色々な評価がありますが、ある程度研究力もないとランキングに入らないということです。ランキングの基準は、教育力、研究力、国際性、産業界からの収入の4点で、企業などいかに共同研究をして研究費をいただいているか、経済に貢献しているかも評価されています。宇都宮大学は、国立大学の中で、教育力、国際性が高く評価されています。また、国立大学の中で、日本人数に対する留学生の数が全国で13位です。研究費とか産業界からの収入がやや低いのですが、ここがアップすれば、ランク上位600～800位を目指せます。

勿論これは教職員が心にとめておかなければならないことですが、皆様のご卒業なさった宇都宮大学は、大変素晴らしい大学ですので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

【創立100周年に向けて（夏秋知英学部長）】

一方で、大学の教育や研究の内容で判断する時代になりつつあります。これは、宇都宮大学農学部、宇都宮大学が、今後、目指さなければならない方向性だということです。このような方向性の中で、過去と現状を分析して、将来を予測しながら、100周年に向けてさまざまな提言をさせていただきたいと考えています。

100周年と言うと、大概、シンポジウムをやりましょう、雑誌や本を出版しましょう、募金活動しましょう、フランス庭園に負けないような100年後にもみんなが楽しめる日本式庭園作りましょう、等々、さまざまな方策が考えられ

ますが、あと6年ありますので、ぜひとも皆様方から、という100周年記念事業を行ったらよいか、ご意見を賜りたいと思います。

【卒業生からの質問やコメント（一部）】

（農学科卒業生）大学の評価が研究内容によるというお話がありましたが、大学卒業してから56年以上になるので、大学の中でどういうことが行われているかわからなくなっています。宇都宮大学はこんなすばらしい研究をやっているというようなご紹介があれば、是非お願いします。

（夏秋知英学部長）杉田前学部長も、カラスの研究で有名で、テレビ出演が一番多い先生です。私も、植物のウィルスに対するワクチンの研究で、農林水産大臣賞をもらいました。近々、イチゴのパッケージで、「スカイベリー」や「とちおとめ」などの、大きいものを傷つけずに運ぶという研究が、文部科学大臣賞をもらいます。研究はノーベル賞級ではないものの、ある程度のレベルは確保されています。

（農業経済学科卒業生）海外大学との連携が始まり、進化しているということで、大変評価しています。農学部が他の学部と、国際展開やグローバルな人材を育てていく上で、学部間の連携、研究活動で、具体的にやっていることがあれば教えてください。

（夏秋知英学部長）まさに私たちが目指しているところです。国際学部と農学部は、共同でスリランカへ学生を派遣するという事業で、JICAから資金をいただいています。また、ABEイニシアティブというのがあり、アフリカから大学院生が来ています。修士課程に入るのですが、英語でカリキュラムがあるところでしか入学できません。農学部がいち早く作り、今年からケニアの留学生が来ており、今後も増えていくと予測しています。英語のカリキュラム、プログラムがさらに充実し、特に国際学部と共同で充実させていきます。

（農業工学科卒業生）100周年の具体的な例、1つの視点として、地域を巻き込んだ100周年の事業、たとえば、外に出て宇都宮の地域を巻き込んだ企画が是非必要だと思いますが、そういう点ではいかがでしょうか。



卒業生からの質問やコメント

（夏秋知英学部長）おっしゃる通りです。たとえば、記念出版をする場合、下野新聞と共同で雑誌を出していますし、

他には、大企業というよりは、県内の企業と共同研究がで
きたらいいと思います。100周年記念研究で共同研究を募
るとか、そういう方向性が大事だと思います。1つは広報
的な使い方、1つは地域に貢献するような共同研究、そう
いうものが重要で、そこに、現役の学生を巻き込んでいく
ということが、将来に役立つと考えています。

（菅野長右之門元学長）大学の評
価をいかに上げるか、自分の時
にも心配りをしたつもりです。学長
は踊りますが、先生方は一緒に踊っ
てはくれません。それをどうい
うふうに躍らせるか、大学の評価は、
教育研究と社会貢献ですが、主に、
教育と研究にどういふふうに先生
を動かすかです。一方では、雑用
がいっぱい入ってくる、それとの兼ね合いで、苦労しまし
た。1つは、先生方に研究費をいかに出せるようにできる
か、もう1つは、学生の教育をいかに充実させていくか
です。私が上手くいったのは英語教育ですが、たぶん英語教
育に、文部省の力を借りて、相当に取り組むことができました。
その結果、宇都宮大学の英語教育への高い評価があっ
たと思います。それは、学生がいなくなれば、新しく入っ
てくるので、次々に、英語教育に巻き込んで、専門力の他
に、国際的に活躍できるような教育をしていくことが重要
だと思います。



菅野長右之門元学長

4. おわりに

学部長と語る会の後、ウェルカムパーティーが催され、
盛況のまま農学部イベントを実施することができました。
また、大学内では農場生産品・加工品や大学オリジナルグッ
ズの販売も行われました。

今回のホームカミングデーは、農学部70周年の平成31年
に、記念行事と合わせて開催することが検討されています。
詳細が決まり次第、会報や大学HPでお知らせします。ま
たのお越しをお待ち申し上げております。



ウェルカムパーティー

新入生歓迎会の開催

平成29年度農学部新入生歓迎会を、4月7日(金)午後
4時30分から、大学会館生協食堂において開催しまし
た。混声合唱団の大学歌斉唱指導に始まり、会長挨拶、
同窓会や学生支援制度についての説明のあと、夏秋先
生の挨拶をいただき、懇親会を行いました。先輩によ
る歓迎の言葉や、美しい歓迎歌「いざ起て戦神よ」
「花」などが披露されました。参加者は154名で、会
の中締め後も、学科ごとに打ち解けた様子で会話をす
る学生が多く、大変盛会でした。



新入生歓迎会スピーチ原稿

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
それぞれいろんな思いや目標をもってこの宇都宮大学
への進学を決めたことと思います。

ご存知の通り、都内の私立大学などでは先生方と話
す機会はめったになく、4年間話すことなく卒業とい
うこともあるそうです。しかし宇大はその逆で、とに
かく先生との距離が近いことが強みです。さらに、農
学部の先生方は個性派ぞろいということもあり、とて
もユニークな方が多いです。ぜひ楽しみにしていただ
さい。

また、農学部は上下のつながりが強いこともいい点
だと思っています。バイト先の紹介や、時間割の組み
方、定期試験の過去問を入手するうえでも上下のつな
がり大学において必須です。ぜひ、遠慮なく声をか
けて、気になることはなんでも聞いてください。

大学はとにかくたくさんの人と関わりをもつことが
できる場です。特に1年生の間は他学部との交流も多
いため出会いの大きなチャンスです。一生の友達や信
頼できる仲間はもちろんのこと、彼氏彼女もぜひつくっ
てください。

大学はとにかく自由な時間が多いですが、その分時
間が過ぎるのもあっという間です。私自身3年生にな
りましたが、長期休暇を利用した旅行や留学など、1
年生の間にやっておけばよかったと後悔していること
もたくさんあります。皆さんにはとにかく多くのこと
を経験してほしいです。ただし、経験といってもお酒
とギャンブルにはくれぐれも気を付けてください。

宇大での大学生活がこれからの人生において、かけ
がえのないものとなることを祈っています。

農学部農業環境工学科3年

石澤 佑成